

鶺鴒温泉自治会

伝統をつなげる

自治会活動を行うなかで、一貫して根底にあるのは親睦交流と世代間交流。地域のつながり・コミュニケーションが大切であると考えます。

毎年、新年会を兼ねたみずき団子づくりを行ってきた。およそ 50 人が参加、子供会育成会等と連携して団子を作り、木に飾ると同時に、昼食にはへっちょこ団子を作って食べる。午後には、みずき団子飾りを見ながら新年会を行う。その他にみずき団子飾りを背景に記念撮影、お菓子まきも行う。老若男女が集い、一緒に作り、食べることが地域の大切な世代間交流の場となっている。

春によもぎ大福づくり、冬にみずき団子づくりのように、季節毎に世代間交流ができる行事を行っている。どれもお年寄りや子供達の交流の場であり、昔からの伝統行事を子供達に伝えていくことも目的のひとつ。また、行事で作った団子やそばは、一人暮らし高齢者の見守りも兼ねて、会長の一言を添え、戸別訪問しながらお配りしている。

その他にも、夏祭り・そば打ち体験会などを恒例行事としており、子供達を中心に全世代間の交流を目的としている。



みずき団子づくり

防災 ～意識を高く保つには～

防災訓練は自主防災会が中心に行う。自治会内に第一次避難所を 4 か所指定し、年 1 か所ずつ実施。4 年で一巡し、一巡後は自治会全体の防災訓

練をしている。訓練内容はけが人の搬送や消火器の使い方、心肺蘇生等、消防署や消防団の指導を受けながら訓練する。東日本大震災等の大きな災害直後には防災意識が高まるが、年月を経るにつれて関心が薄れてしまう。実際に自治会内で起きた災害や予測される災害に関する情報交換を行う等、常に防災意識を持てる工夫をしていきたい。

長寿を祝う会

「長寿を祝う会」は、鶺鴒温泉自治会が大きく力を入れている行事の一つ。地域に住む 75 歳以上の敬老者約 200 人のうち、参加者は 50 人を超える。会では地域の団体によるさんさ踊り、個人による日本舞踊や子供会育成会による歌やクイズも行われ、長寿を祝う会においても世代間交流が試みられている。会の最後にはハーモニカ伴奏に合わせ「ふるさと」を歌い、来年の再会を祈り散会する。当日出席できなかった方には、お菓子とお酒にメッセージを添え、お届けしている。

今後の展望

コロナ禍の影響に加え、役員の高齢化も進み、自治会活動の中心を担う後継者を探すことが課題。現在の役員がサポート役となりながら、若い世代に引き継いでいく形が理想的である。共働きの世帯も多く、ニーズが多様化しているため、体制そのものを変えなければいけないだろうという声もある。思いやり、助け合いにあふれる地域を作るためにも、個人個人が協力できる体制を作ることが、今後の展望である。



左から内記軌平氏(事務局長)、伊藤光雄氏(自治会長)、細越三郎氏(前福祉部長)、取材時撮影